学生大使　実施報告書

氏名：猿渡はるひ
学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部人間文化コース２年
派遣先大学：新モンゴル学園
派遣期間：2024/09/5～2024/09/18

１　日本語教室での活動内容

新モンゴル学園では高校・高専・工科大学で日本語の履修が必修となっており、今回の派遣では工科大生と高専生の授業、「友ランゲージ」という日本語学習プログラムに参加させていただいた。主には授業の見学であった。日本語のレベルは初級から上級まで様々で、日本での就職や留学を目指している学生にはビジネス日本語の授業も開講され、参加させていただいた際には面接のお手本として大学の志望動機、今学んでいることとそれを将来にどう生かすかについて話をした。また工科大の初級のクラスで平仮名の授業をさせてもらった。先生のお手本を参考にしながら、主に英語を使って間違えやすい平仮名やきれいに書くポイントを教えた。高専の授業に参加させていただいたときは、日本から持参した漢字かるたでかるた大会をした。この学年は日本語をかなり知っており、漢字かるたはいい復習になったようで、読みや似た漢字を確認しながら進め、かなり盛り上がった。
モンゴルの学生は日本と比べて授業に意欲的で、反応も良く返してくれたのが印象的だった。人の前に出て授業をする経験はこれが初めてだったが、とても進めやすかった。

２　日本語教室以外での交流活動

今回、新モンゴル工科大学３年生の T さんのお宅にホームステイさせていただき、学校や普段の生活では基本的に T さんとその友人との３人で行動した。二人は留学を目指し日本語を勉強していたため、日本語と英語を交えながら会話した。はじめは英語が主であったが、打ち解けていくうちに日本語を使う回数が増えたため、徐々に日本語のスピードを上げたり、文章の長さを調整したりと、「やさしい日本語」から「自然な日本語」の話し方に変化させるよう意識した。お互いの文化や国の話、将来の話や普段の心の内など、想像以上に深い会話もすることが出来た。彼らの友人たちもフレンドリーかつ親切な性格であり、学校で会った際に話しかけてくれた。
また 10 月から山形大学に留学予定の学生が、以前も他の大学に留学経験があり日本語が堪能であったため、すべて日本語でウランバートル市内を案内してくれたり、みんながモンゴル語で話しているときに日本語に訳してくれたりと、いろいろな面でお世話になった。
今回派遣された時期が新モンゴル学園の高専と工科大学創立 10 周年という節目であったため、式典にも参加させていただいた。その前日に日本から学校にお客様がいらした際、休憩時間のアトラクションという形で、T さんとモンゴルで有名な「ウラン・ハス」という曲を演奏させていただく機会もあった。T さんは音楽学校出身で大学に通いながらもプロのチェリ

ストであり、私はサークルでクラリネットを吹いているため、家で一緒に演奏したいというやり取りを渡航前にしており、日本から楽器も持参していたのだが、学校からこのような機会を設けていただいたことでより記憶に残る経験をすることができた。
そして何よりも思い出深いのはホストファミリーとの交流である。みんな暖かく出迎えてくれ、妹や弟たちは日本から持参した折り紙を使ってたくさん遊んでくれた。特にお母さんには、食事の準備をはじめとてもお世話になった。週末には田舎に連れて行ってくれ、T さんのお祖母さんの家でモンゴルの伝統料理を教えてもらい、遊牧民の親戚の家に行ってゲル体験をさせてくれた。また帰国当日が私の 20 歳の誕生日だったことから、前日の夜にサプライズでお祝いしてくれた。2 週間という短い期間でありながらも、暖かな家族の一員として寝食を共にし、お互いの文化を教えあえたのはホームステイだからこそできた経験だったと思う。

３　参加目標への達成度と努力した内容

日本語教室では臨機応変に対応することを目標にしていたが、達成できたと思う。特に平仮名の授業はその日突然入った授業だったため事前準備などせず行ったのだが、どうやって何を伝えるかを授業をしながら考えて、要点を教えることが出来たと思う。

４　プログラムに参加した感想

私がモンゴルを渡航先に選んだ理由は、いくつかある国の中で唯一ホームステイだったからである。私は大学で文化人類学を専攻している。実際にその土地に飛び込んで、日本とは違うところがあるのか、逆に同じところはあるのか肌で感じることにとても興味があり、ホームステイであれば人々の生活をより近くで見ることが出来ると思いモンゴルに決めた。交流していくうちに、国が違っても同じようなことで笑い悩むこと、言葉が分からなくても十分触れ合えること、習慣の違いやそれに伴う考え方の違いなど、同じ部分も違う部分もそれぞれ細かな部分で感じることができ、このような経験を踏まえて、渡航前に比べて物事を考える際の引き出しが増えたように思う。
初めての一人での海外渡航はとても不安だったが、周りの人が暖かく接してくださり、私のことをいつも気にかけていただいたおかげで、不自由なく毎日を過ごすことが出来た。ホストファミリーや新モンゴル学園関係者の方々をはじめ、今回関わってくださった全ての方々に心から感謝申し上げたい。

５　今回の経験を踏まえた今後の展望

主な会話は日本語と英語を交えて行ったが、特に英語を使って会話をする際に、相手の話している内容は理解できても自分の言いたいことをうまく表現できないことが多々あり、もどかしい思いをした。そのため、今後は英語の学習、特に英作文やスピーキングなど表現力を高める学習に力を入れていきたい。
また私は普段失敗を恐れて無難な選択をしがちなのだが、今回の渡航で思い切って行動し、それが結果的に自分の糧になるという体験ができた。この「とにかくやってみよう」を、これから少しずつ増やしていきたいと思う。

【学生大使 実施報告書】

学校での演奏の様子

漢字かるたを使った授業

【学生大使 実施報告書】

ホストファミリーと作った折り紙

週末に連れて行ってもらったゲル